


産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立 井原 高等学校
実践場面	井原市の特産品である「ブドウ」の振興を図るため、関係機関と連携した取組
実践日時（時期）	令和7年10月3日（金）
対象生徒（学年）	地域生活科グリーンライフコース3年生 25名
連携の形態	晴れの国岡山農業協同組合・井原市農林課・井笠農業普及指導センター・全国農業協同組合連合会岡山県本部他
学びの分類	商品開発・共同研究／技術指導
実践の内容	
<p>【現状】</p> <p>本校では、地域生活科グリーンライフコース3年生が、学校設定科目「ブドウ学」を履修している。令和5年度から本校を会場として、井原市露地ぶどう品評会が開催されており、生徒は毎年、審査補助を務め、出品物の評価に関する説明を受けている。</p> <p>今年度の実践では、生徒が自ら管理したシャインマスカットをオープン参加で出品し、プロの農家と同じ基準で審査を受けた。</p> <p>【実践内容】</p> <p>生徒たちは、審査の打ち合わせ後、農家が持ち寄ったシャインマスカットとピオーネの審査補助を務めた。具体的な審査項目として、果粒重、果径、果皮色、有核（種子）の有無の確認、糖度測定など、専門的な計測作業を行った。審査後、審査員からは、高い評価を受けたブドウの優位点や、栽培管理で注意すべき内容について、詳しい説明と技術指導を受けた。</p>	
	
実践による効果等	
<p>1. 品質評価能力の向上：生徒は計測値を記録しながら評価のポイントを知り、どのようなブドウが高い評価を受けるか判断できるようになった。これは、単なる知識ではなく、実体験を通じて商品価値を見極める実践力が身についたことを示している。</p> <p>2. 課題発見と改善意欲の醸成：生徒が出品したブドウは、評価が全体の下から2番目であった。この具体的な結果を受け、生徒たちは、自分たちのブドウに足りない多くの点に気づくことができ、この結果が次の探究活動への動機付けとなった。</p> <p>3. 学習動機の強化とキャリア意識：栽培管理から最終生産物の評価までを経験し、課題を発見し次回取り組むべき内容を理解した。高い評価を受けるためには管理が大変であると認識しつつ、それ以上に「学びを深め実践していきたいという強い動機」を生み出すことができたと推察される。これは、生徒の自己有用感を高め、キャリア教育に資する側面を持っている。</p>	